

令和6年度

第2回海老名市総合教育会議

令和6年度第2回総合教育会議議事録

- 1 日 付 令和6年7月13日（土）
- 2 場 所 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社海老名事業所841ホール
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 濱田 望
教育委員 武井 哲也 教育委員 海野 望
- 4 事務局 教育部長 江下 裕隆 教育部次長 吉川 浩
教育部教育支援
担当部長兼教育
支援担当次長事
務取扱兼教育支
援課長事務取扱 麻生 仁 教育部参事（給
食・公会計担
当） 山崎 淳
教育部参事兼教
育総務課長 西海 幸弘
教育総務課文化
財担当課長兼文
化財係長事務取
扱 押方 みはる 教育部参事兼就
学支援課長兼指
導主事 山田 圭
教育部参事兼教
育支援課教育支
援担当課長兼教
育支援センター
所長兼指導主事
兼支援係長事務
取扱 小菌 洋 学び支援課長 松本 晃子
教育支援課副主
幹兼指導主事 佐藤 英恵
- 5 協力企業
出席者 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社海老名事業所
海老名総務チー 三島 英二 プロフェッショ 永田 真
ム総務センター 長 ナルエキスパー
ト
- 6 書 記 教育総務課総務 小林 亮介 教育総務課主査 片山 考人
係長
教育総務課主査 伊藤 景子 教育総務課主任 小豆畑 めぐみ
主事
- 7 傍 聴 人 24名
- 8 開会時刻 午前10時00分
- 9 協議事項
(1) 教育大綱の取組について —文化財の保護と積極的な活用—
(2) 学校と企業の連携の在り方について
(3) 英語教育について
- 10 閉会時刻 午前11時40分

○教育部次長 皆様、おはようございます。ただいまより、令和6年度第2回海老名市総合教育会議を開会いたします。

本日、司会を務めます海老名市教育委員会教育部次長の吉川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

では、会議の開催に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。本日ご用意いたしました資料は、A4の会議次第1枚、それからツーアップ、上下2段で印刷されました協議事項資料の2点でございます。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。なお、協議事項の資料につきましては、私の左手、皆さんの正面でも投影しますので、そちらでもご覧いただくことはできますが、スクリーンの撮影につきましてはご遠慮いただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

また、本会議全体を通しまして、海老名市ユーチューブチャンネルにてライブ配信をしておりますので、そちらも何とぞご了承願います。

それでは、会議に移らせていただきます。

まず次第の2、市長及び教育長からご挨拶を申し上げます。

初めに、内野市長、お願いいたします。

○内野市長 おはようございます。第2回海老名市総合教育会議にご出席を賜り、心から感謝申し上げます。

当会議は、市長と教育委員の皆さんが連携協議する場であります。本日は、富士フィルムビジネスイノベーションのご厚意によってこの会場を借りることができました。私も昨年、市長選挙を経て、3つの連携ということでやっています。市民との連携、企業との連携、そして他の自治体との連携という形であります。富士フィルムさんとは、フットボールチームの富士フィルム海老名ミネルヴァの関係で商工会議所と包括連携協定を結んでおりまして、アメリカンフットボールを盛んにしていきたいという形で活動しております。そういった中で、その後、富士フィルムの工場の方と包括連携を結びまして、より一層、企業と自治体が協力し合っていこうと協定を結びました。

そういった関係の中で、歴史的には海老名も町から市になって50年以上経っていますけれども、ちょうどその頃に富士フィルムの前身の関係でいいますと、富士ゼロックスがこの場にできました。そうすると、海老名の成長というのは、富士ゼロックスと一緒に歩んできたということで、そういった部分ではいろいろな歴史を両方で築き上げてきたという形でございます。

本日はそういった関係で、私ども、富士フイルムの会社と、教育の場、あるいは地域の活動、いろいろな面で連携できると思いますので、これを機会にしてやっていきたいと思っています。今日は皆さんもいらっしゃいますので、忌憚のない意見を聞かせていただきたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

○教育部次長 内野市長、ありがとうございました。

続きまして、伊藤教育長、よろしくお願ひいたします。

○伊藤教育長 おはようございます。駐車場から会場まで遠く歩かせてしまって大変申し訳ないなと思って、途中から誰か車であそこに行ってピストンすればと、ちょっと思ったりもしたのですけれども、申し訳ございませんでした。

今日、今年は企業でやるということで、最初に富士フイルムさんがいの一発で、うちでどうぞとおっしゃってくださったので、本当にありがたく思っております。

ここは本郷という場所で、この台地の上で、あそこにあるように、これをつくるときに本郷遺跡が発掘されました。その頃、私、有馬小学校に勤めていまして、有馬小学校のときにこの本郷遺跡の出土品が展示されていて、子どもたちと一緒に、旧富士ゼロックスのその門に入って、こんな嚴重ではなかったのですが、子どもを連れて見学したことを覚えてます。

そういう中でいうと、企業は、地域の人々1人1人にそうなのですから、とても大切な教育資源だなと私は思っています。そういう意味で、企業は、教育活動の中で、また、そこに住んでいる子どもたちにとってどういう意味があって、そこが協力することによって何が生まれるのかなというのがとても大事だなと思っております。

私が勤めていた有馬小学校の子どもたちは何を楽しみにしているかという、ゼロックスの夏祭りをとても楽しみにしていて、それが終わるとすぐ私のところで、先生、昨日こういうのがあったのだよ、こういうのがあったのだよ、お笑い芸人の誰さんが来て、とても面白かったのだよとみんな報告してくれて、地域の中で企業はそういう1つの役割を担うのではないかなと思っております。

そういう中でこれから教育委員会としては、市長と共に、今日は富士フイルム、またあと2つの違った企業で総合教育会議を行って、教育の中の企業連携についても考えていきたいと思っていますので、皆さん、どうぞご意見をいただければと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

○教育部次長 伊藤教育長、ありがとうございました。

続きまして、次第3、協議事項に入りたいと思います。

本日の協議事項は3件でございます。協議事項の進行につきましては、本会議設置者であります内野市長に議長をお願いしたいと思います。

内野市長、よろしくお願いいたします。

○内野市長 それでは、まず(1)教育大綱の取組について—文化財の保護と積極的な活用—について、事務局からお願いします。

○文化財担当課長 それでは、報告をさせていただきたいと思います。私、教育部教育総務課の文化財担当課長の押方と申します。よろしくお願いいたします。それでは、着座にて失礼させていただきます。

本日は、海老名市教育大綱の施策の「こどもと大人がともに学ぶ機会の充実」の中から、文化財の保護と積極的な活用についてご説明させていただきたいと思います。

説明の前に、本日は、教育長からお話ございましたが、本郷遺跡の上で総合教育会議を開催させていただいております。少しだけ、この本郷遺跡についてご紹介させていただきたいと思います。

本郷遺跡は、旧石器時代から江戸時代にかけての遺跡で、工場などの建築に伴いまして、昭和46年から大規模な発掘調査が行われました。こちらは昭和46年、海老名市が市になる少し前に撮影された写真です。発掘調査が終わったところから建物の工事などが行われたと伺っております。

本郷遺跡では、特に弥生から古墳時代前期にかけて、また、奈良・平安時代の発掘調査成果がよく知られております。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大規模な集落跡が発掘されました。方形周溝墓と呼ばれるお墓からは、このような壺が出土しております。そして、小銅鐸を使った祭祀や、管玉などの玉作りも行われていたことが分かりました。小銅鐸はこういう復元品も作っております。

また、奈良・平安時代の遺構としては、建物跡、井戸の跡などが発見されております。建物の跡の中には、23メートル以上もあるとても大きなものもございます。また、文字が書かれた土器も多く出土しておりまして、ここ本郷周辺に郡の有力者に関する集落があったと見られています。本日は、実際に弥生時代の壺と奈良・平安時代の墨で文字が書かれた土師器という土器、それから金属製品で鈴も持ってきておりますので、もしよろしかったら後ほどぜひご高覧ください。

このような貴重な発掘成果につきましては、各時代の生活や文化を知る手がかりとなっております。このように発掘調査の報告書を刊行していただきまして、神奈川県内のみならず、全国的にも著名な遺跡となっております。

さて、それでは海老名の文化財についてご紹介したいと思います。

文化財には、文化財保護法で、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物、埋蔵文化財などが規定されております。海老名市では、有形文化財として、国の重要文化財、龍峰寺の木造千手観音立像、国登録有形文化財の旧今福家住宅、こちらは表門の写真になります。それから、無形民俗文化財としては、市指定の大谷歌舞伎とか県指定、相模のささら踊り、また、天然記念物としては、有馬のはるにれや海老名の大櫓、また、相模国分寺跡、秋葉山古墳群のような国指定の史跡、ほかに市域には埋蔵文化財の包蔵地も多くございます。本郷遺跡もその1つとなっております。

施策として掲げてあります文化財の保護と積極的な活用の目的を達成するために、文化財の保存と活用、両輪で取り組んでおります。

「保存」の措置といたしましては、市内の重要な文化財を調査し指定文化財や登録文化財とすること、また、既に指定されている文化財については将来へ引き継ぐための保存や修繕もいたしております。

それから、相模国分寺跡・国分尼寺跡については、指定地について順次用地の買上げを行っています。

埋蔵文化財については、開発や建築に先立って試掘や記録保存も行っています。

「活用」といたしましては、海老名市温故館での展示、相模国分寺跡でのイベント、文化財めぐり、また、近年ではIT技術も導入いたしまして、文化財の活用に取り組んでおります。

最近の取組について具体的にご紹介していきたいと思っております。

まず、保存についてでございます。

向かって左は相模国分寺跡でございます。国分寺跡、国分尼寺跡の用地取得や整備について行っております。

右については、近代初期に出されました五榜の掲示の1枚です。令和4年に市登録有形文化財に登録いたしました。

海老名市では、海老名市文化財保護条例によりまして市の文化財登録制度を設けて、幅広い文化財の登録を進めているところです。最近では、この4月に、上今泉にある独鈷井

戸、三日月井戸について、市の登録史跡といたしました。また、旧海老名村役場の建物、海老名市温故館は、令和5年に国の登録有形文化財になりました。

次に、文化財の活用についてご紹介いたします。幅広い年代の方に海老名の歴史を知っていただき、楽しく学べるように取り組んでおります。

左は中央公園七重の塔の前に設置した文化財の案内板です。

また、海老名駅から国分寺跡や温故館への誘導のサインも、景観に配慮して整備いたしました。

温故館では企画展を行っておりまして、開催の際には広報に努めております。昨年、近代鉄道について展示した際には、FMヨコハマでも中継をしていただきました。また、NPO法人海老名ガイド協会とも連携いたしまして、文化財めぐりを行っております。幼い頃から史跡に親しんでいただくため、相模国分寺跡であそびのひろばというイベントも開催しております。これらの遊具には国分寺跡などにちなんだ名称をつけまして、親しんでいただいております。さらに、より詳しく文化財を知っていただくために、各種パンフレットも発行しております。

そして、IT技術を導入いたしまして、湘南工科大学と共同で相模国分寺跡の復元に取り組んでおります。会議開催前に流しておりました動画やVR作品についても公開するとともに、小学生向けにiPad用のアプリも作成して活用しております。今日はそこにデモ機もありますので、よろしかったら後でご覧ください。

また、市内の古い写真や歴史的な文書についてもデジタル化しまして、一部をホームページで公開しております。

こちらは江戸時代のすごろくになります。歴史資料収蔵館で収蔵しているすごろくを、デジタル展示としてホームページで公開しております。本日は複製の資料も展示させていただきます。

最後に、令和6年度の取組の一部についてご紹介させていただきます。

文化財の指定に向けて、海老名各地のお囃子の調査を行っております。また、仏像の調査として、大山信仰と関わりのある不動明王像の調査も行っております。そして、相模国分寺跡については、保存活用計画の策定に取り組んでおります。こちらについては、また市民の皆様のご意見も伺う機会も設ける予定でございます。

そして、ちょっと宣伝にもなってしまいますが、現在、海老名市温故館で企画展を開催しております。「発掘された海老名のお宝～この10年の発掘調査成果から～」といたしま

して、第一弾の縄文時代、弥生時代の展示を行っております。ぜひ足をお運びいただければ幸いです。

以上、文化財の保護と積極的な活用の取組についてご報告とさせていただきます。

○内野市長 今、事務局から説明がありました。委員の皆さんから、何かご意見、ご質問がございましたら、よろしくをお願いします。

○武井委員 丁寧な説明ありがとうございました。文化財の保護とか指定とか登録などもすごく大切だと思っていて、それと同時に海老名の子どもたちも、そういったことを考えながら、愛郷心とかふるさとの意識をつけるというのはすごく大事だと思っていて、そういった中で、例えば国分寺跡のイベントとか、史跡めぐりとか、いろいろな仕事がある中で、今後、課長としては、これから子どもたちがこういった文化財保護とか指定について興味を持ってもらえるような事業というのはどういったことをやってみたいとか、どういったことを考えているというものがありましたら、お聞かせいただければと思います。

○文化財担当課長 子どもたちに興味を持ってもらえるようにいろいろなことはやっているのですが、i P a dなども使ってやっていますけれども、次のITを使った段階としてはやはりもうちょっと進んで、まだ全然これはやれるかどうか分からないですけれども、メタバースとかMRで中に入り込んでみるとか、そういうのができたらいいなと思っています。

あと、やっぱり子どもたちには、実際に触ってもらって体験してもらうのが重要なことだと思っていて、こういう出土品についても、今、温故館でやっているものについても、実際に何か触ってみてもらえるようなものを設けたりしております。

○武井委員 その触ってもらおうという感覚がすごくよくて、僕は本郷に住んでいて、実は畑が、その県道22号線の反対側に1枚あるのですけれども、そこをトラクターで耕うんすると、こういう土器みたいなものが出てくるのです。僕は土器だと思っているのですけれども、陶器の瀬戸物をそこに故意に入れたわけでもないのに、耕うんするたびにそれが出てくるのですよね。雨が降るとそういうのが浮き上がってくる。僕も全くこの遺跡は興味がなかったのですけれども、自分のところで出てきて触ってから、弥生時代のものとかに興味が出てきたので、ぜひそういった事業ができればいいと思っています。ありがとうございました。

○濱田委員 本当に丁寧な説明ありがとうございました。私もすぐ近くに住んでおりますので、富士フィルムさんの遺跡について、新たに感動したという思いでございます。現実

に見ると、本物はすごいですよね。すばらしいと思います。

あと、やっぱり古いもの、例えば文化財というものでありますとか、江戸時代から近代までいろいろなものが文化財として登録されるのも必要だと思いますけれども、やはり今、新しい技術で、どんどんどんどんAI、あるいはITが進んで、可能性がどんどん広がってくると思うのですね。ですから、そういうところをこれからもさらに研究していただいて、古いものを新しい技術でどんどん再現してPRしていくことにご注力いただければと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○海野委員 ご説明ありがとうございました。いつもいろいろ海老名の文化財についてすごくご尽力いただいている、私もいろいろなものを知ることができて、大変うれしく思っています。

そして、今日も来る前にじっくり見させていただいたのですけれども、やっぱりこの地元のものというところもあって、こんなに間近で見られるというのはすごいなと思って、さっきちょっと、これはどうやって模様をつけたのですかというお話もさせていただいて、昔の人は本当にすごいことをやっていたのだなと思いました。

ちょっと1つ聞いてみたかったのが、あそこにすごろくがあるではないですか。あれって、私たちが子どもの頃にやっていたすごろくとすごく形が違うのですね。あれもやっぱり、1、スタートみたいなところがあって、どうやって遊ぶのか、ちょっと教えていただけたらとか、そのうち子どもたちもできたら、昔遊びみたいな感じで面白いのではないかなと思いました。

○文化財担当課長 あちらにあるのは、絵すごろくという紙製の折り畳んで持ち運べるようなすごろくになっていて、今でもスタートとゴールがあると思うのですけれども、やっぱり振り出しと上がりがあります。ちょっと文字が難しいので、子どもでぱっとは分からないと思うのですけれども、それを読み解いていくのも、何かひとつ面白いのかなと感じております。

○平井委員 この部屋に入ってきて、一番先に目についたのが、そこに展示してある壺なのですけれども、私、こんなに身近なところで見ただのは初めてだったので、とても感動しました。教育長にほかの場所に移るよと言われるまでずっと見ていました。本当に細かい手仕事で、すばらしいのですね。

私、小学校でちょっと教えてはきましたけれども、これだけのものがこの海老名に埋蔵されていたということ自体驚いていて、温故館にもいっぱい展示がしてあるのですが、今

日ここで見させていただいて、子どもたちにぜひこういうものを生で見させてあげたいなと思いました。温故館に行かなくても学校に貸出し等ができるならば、学校にぜひ2品でも3品でも届けて、子どもたちに海老名の歴史を感じ取ってもらえたらいいなと思うのですが、今、学校への貸し出し等はどうなっていますか。

○文化財担当課長 学校への貸出しも行っております。扱いが、先生方は、やっぱり扱いが怖いというところもあるのかも知れないのですけれども、よくお貸しするのは糸車です。糸車は結構小学校へお貸ししています。でも、ご相談いただければ、たくさん貸出ししたいと思います。

○内野市長 皆さんから何かありますか。ないですか。

海老名でずっと育っているけれども、一番の史跡はどこかという、ひょうたん山なんです。ひさご塚。海老名中学校の裏からずうっとひょうたん山なのです。それが家がどんどんできちゃって、あれだけの面積。私は海老名中学校の出身で、平井先生もそうなのだけれども、裏に行くと湧き水があって、海老名小学校の人たちは、その冷たい湧き水で掃除をしています。その湧き水が出るところは防空壕だったのですよ。

だから言い換えれば、防空壕ができる前はあそこに湧き水があって、その湧き水は何かという釜坂川の源流で、尼の泣き水だったので。だから、防空壕を造ったりいろんなことをして、結局は防空壕も危ないからといって埋立てをして、いわゆる尼の泣き水がなくなってしまった。そういう問題です。

結局は、文化財ってすごく難しいですけども、時代ごとに移り変わっていて、あの当時は造成してもよかった。今でもやれるかという、やれないということです。だけれども偉いのは、この富士ゼロックスが一番偉いと思います。昭和46年当時にここをやったときに、これだけの遺跡を発掘してやった。会社は相当なお金を使ったと思います。これはやっぱり外資のお金で、日本の企業だったらもうどんどん掘ってしまう。5メートル掘ってしまえば、はっきり言って文化財の価値はない。

だから海老名市は、そこらじゅうやると、例えばの話、本郷の道路を1本直してくれという工事費で1500万円ぐらい。ところが、発掘調査で3000万円かかるのですよ。これが困ってしまうというのが現実なのです。だけれども、やらざるを得ないのでやっていますけれども、本当に今後、文化財の関係ってどうなるのかなど。皆さんご承知のとおり、国分寺跡地の横にマンションができるというので反対運動ができました。マンション業者が最終的には戸建ての住宅にしますというのがありました。それは1つ、私は企業の英断

だと思っています。地域の反対があったということも事実でありますけれども、いわゆる企業イメージを大事にした。

もう1つ言えることは、国立ですか、富士山が見えるところにマンションができて、もう1か月後に入居するのに壊してしまう。あれがなぜああいうふうになったかという、やっぱり企業イメージを大事にしたとか、いろいろな問題があります。

あれがすごく問題があるのは、これから景観がどう問題になるのかと。法律で景観のあれがないのですね。各市では景観条例をつくっていますけれども、いわゆる建築基準法を規制するような景観条例はできません。だから、そこら辺が、建築基準法とか国の法律が、どこまで環境権とか景観の部分を加味した法律ができるか。それまでこういう問題はもっと出てくると思います。あの国立の撤退したことを受けて、それぞれの自治体とか市民の方、住んでいる方が、それを主張してくると私は思っています。

これも海老名において今後出てくる可能性がすごくありまして、なぜかという、海老名はタワマンが多くなりましたから、景観が相当昔と違って、大山が見られたのが見られないとか、いろんなことが出てきています。そういった部分でいくと、今後どういう考え方でまちづくりをやっていくかというのが1つ問題で、しかし、1つだけ言えることは、法があって、その中に、景観が大事だというのだけれども、建てる人たちは建てる権利があって、法律にのっとってやっていますから、どうしてもそこら辺がうまくいかないというのが今の問題で、これは私が論じる前に、国である程度そういったことが今後出てくると私は思って、期待をしていきたいなと思っています。

○伊藤教育長 私、いろんなところで文化財の挨拶をするときに、私たちが立っているこの下のちょっと下のところに昔の人たちの足跡があるとか、昔の人たちの住んでいた痕跡があるから、それだけは子どもたちに知ってほしいなど。今ここに我々が住んでいるのが全てではなくて、その下には大昔の人の使ったものとか、大昔の人たちの足跡がずっと残っていて、その上に私たちはこうやって生活しているのだよということ子どもたちには実感してほしいなど、私は文化財については思っているところでございます。

以上でございます。

○傍聴者 すみません、1つだけ言わせてください。

○内野市長 どうぞ。

○傍聴者 ごめんなさい。先ほど市長さんが話されましたけれども、文化財というのがいかに大事かということとあわせて景観のお話をされましたけれども、皆さん、本当、今日

は若い方にお集まりいただき、すごいなと思いました。海老名の総合教育会議にこういう若い方が大勢見えて、それで関心を持って海老名の教育をどうしようかというふうに考えられる人が多いのだなということで、私の周りを見たら年寄りには1人しかいないので、ちょっと考えさせられたのですけれども、ただ、年寄りの話もちょっと聞いてもらいたいなと思って、時間をいただきたいと思います。

先ほどの景観の話なのですけれども、文化財そのものについての認識は皆さん十分お持ちだと思うのですけれども、有形、無形のものうち価値を広く認められたものを文化財と言われるというふうに言われました。先ほど無形も有形もあるというふうに言われまして、その中で、先ほど市長さんが景観というものに触れられてお話をしてくださいました。私、すごくいいことをおっしゃられるなと思いました。というのは、ほかでもないのですけれども、私はたまたま、昔の話ですが、2007年（平成19年）11月14日のことなのですけれども、「海老名らしい景観を考える」ワークショップというのが行われて、その後、海老名に景観条例というのがつけられたのですよね。

その景観条例をつくるに当たって、やはり海老名らしい景観を残していこうというのが、当時、大事な1つのテーマとして取り扱われたのですけれども、やはり景観そのものも1つ大事な文化財だなと私は思っているのですよ。

その景観の中で、特に自然景観というものに私はすごく関心を持っているのですけれども、文化財として残されているのは、ほとんど棚田とか、ああいうものしか景観としてはなかなか残っていないのですけれども、私は、里山というものをぜひ景観の中に取り入れてもらいたい。要するに、景観の文化財の一角の中に入れさせてもらえたらすごいなと思っています。里山そのものというのは、日本人の昔からの生活の中でつくられてきた自然景観なので、それと併せて、ぜひ文化財の中の自然景観の中に今残しておかないと、その景観は失われてしまうのではないかと。要するに、埋蔵文化財のような形で残すことができない1つの財産ではないかなと思ひまして、ちょっと提案させていただきました。ぜひそのあたりに視点を少し与えていただくとありがたいなと思います。

以上です。

○内野市長 今のお話は、ご意見として賜っていきたいと思っています。

ほかにございますか。

それでは、（1）の文化財の保護と積極的な活用についてはここで終了いたします。

○内野市長 それでは、（２）学校と企業の連携の在り方について、事務局から説明をお願いいたします。

○教育部長 教育委員会教育部の部長をしております江下といたします。よろしくお願いたします。着座にて失礼いたします。

協議事項の（２）学校と企業の連携の在り方についてにつきましてご説明いたします。

説明させていただく前に、冒頭、市長の挨拶の中でもございましたが、本市では、まちづくりのさらなる継続と発展のため、３つの連携が必要であるということが示されました。この３つの連携というものは、①市民、②企業、③他市、この３つを指しております。特に②の企業の連携につきましては、後ほどご説明はさせていただきますが、様々な分野の企業の皆様と連携協定等を結んでおります。また、本日、この総合教育会議を富士フィルムビジネスイノベーション株式会社海老名事業所様のご理解、ご協力の下、施設をお借りして開催させていただいたことも、市の取組に基づき、教育委員会として行いました企業連携の１つでございます。

教育委員会は、地域の人に支えてもらいながら、子どもたちが多くの人の輪の中で育つような学校づくりを目指すということで、学校運営協議会を中心としたコミュニティスクールの醸成というものを行っております。その地域の１つとして地元企業を位置づけ、子どもたちが地域の一員として地域の輪の中で育てることを目的として、地元企業との連携を進めております。

また、企業との連携は様々な場面で現在も行われております。児童生徒たちの成長を育むためには、今後、どのような視点を持って、また、どのようなことに取り組んでいったらよいのかということ、市長はじめ教育委員の皆様から本日もご意見をいただき、今後の教育委員会での取組につなげていくために、今回、協議事項として挙げさせていただいた次第でございます。

ここからは、実際の連携協定の内容とか、市や学校の連携事業の紹介をさせていただきます。

まず、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社様になります。

令和６年１月５日に包括連携協定を締結しまして、主な協定内容は、児童生徒の職場体験の実施、部活動指導員研修においてスポーツ専門のスタッフによる講義の実施、そういったことを内容としてさせていただいております。

この後は、富士フィルム海老名ミネルヴァAFCの画像等を紹介させていただきます。

こちらは富士フィルムさんがつくられている、応援させていただいておりますアメフトチームでございます。

これは海老名の運動公園で相模原ライズさんとの試合の映像でございます。

続きまして、これはアメフトの試合用ゴールポストを富士フィルム海老名ミネルヴァ様から寄贈いただいたときの写真でございます。

これは試合の様子とか海老名市のキャラクターえび〜にゃの写真。

続きまして、これは試合後になるのでしょうか、ミネルヴァさんの選手たちが子どもたちと触れ合っている、そういった活動をしていただいている写真となります。

続きまして、小田急電鉄株式会社様になります。

こちらは令和6年2月22日に包括連携協定を締結しまして、主な協定内容は、小中学生の就労体験の実施、あと、先ほど協議事項の（1）でもちょっと触れさせていただきましたが、温故館やロマンスカーミュージアム等を活用した連携企画の実施などとなっております。

この画像は、その連携企画として、ロマンスカーミュージアムで相模国分寺ミニ展示を開催した様子となっております。

一方、温故館では、「えびな近代鉄道物語」というものを開催いたしまして、現在の相模線となる相模鉄道、現在の相鉄線となる神中鉄道、あと小田急線、この鉄道3線の敷設や駅の設置の歴史などを取り上げまして、連携を図ったイベントを実施いたしました。

続きまして、相鉄ホールディングス株式会社様です。

こちらとは令和6年5月28日に包括連携協定を締結しまして、主な協定内容は、海老名駅周辺の魅力あるまちづくりにおける協力及び連携、今、相鉄の駅舎部分の工事をしております。また、鉄道・バスにおけるサービスや利用促進に関する協力及び連携となっております。

そのほか、主な協定等を行っております企業について、ちょっと紹介させていただきます。

まず初めに、リコージャパン株式会社様でございます。

これは販売事業本部神奈川支社との協定となっております。協定内容は、学校でのICT機器の提供、実践的な学習環境等の提供としておりまして、主に今泉小学校増築棟建設に合わせまして、先進的な教育機器等を導入するといったときにご協力いただいております。

続きまして、雪印メグミルク株式会社様です。

市内の小学校3年生を対象にしました工場見学に係る協定を締結しております。これは3年生の社会科の授業単元に工場働く人と仕事というものがございまして、毎年度、その授業の一環である工場見学に協力いただいております。

続きまして、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様です。

一例を挙げさせていただきますと、市内の中学校に吹奏楽部がございまして、吹奏楽というのはどうしても楽器の運搬等に費用がかかってしまうため、演奏する機会を確保するのが大変厳しい状況がございまして、そこで、コカ・コーラ様は市内の中学校の吹奏楽部の合同コンサート開催費用を毎年度寄附していただき、「コカ・コーラさわやかコンサート」といたしまして、中学校の吹奏楽部が日々の成果を市民の方々に発表する貴重な機会の場を提供していただいております。また、このコンサート以外にも、二十歳の祝典においても飲料水の提供をしていただいております。

なお、こちらに挙げさせていただきました雪印メグミルク様とコカ・コーラ様ですが、災害時における生活必需物資の調達及び供給に関する協定というものも締結させていただいております。

その他の企業連携ということですが、特に学校の授業などに関連したものを口頭で少し紹介させていただきたいと思っております。

まずは小学校でのお仕事探検というものがございまして、これは小学校2年生が対象になりまして、教育単位としましては生活科のまち探検というものがございまして、これは学校周辺、子どもたちご自身が住んでいる周辺地域にどんなお店があるのかとか、それがどう生活につながっているのかといったものを知るための単元でございまして、例えば柏ヶ谷小学校では、近くの交番とかお花屋さん、お菓子屋さん、スーパーなどに行きまして、どんなものがあるのかというのを小学校2年生に教える授業です。そういったところでも企業の方々のご協力をいただいております。

続きまして、中学校での職場体験。これは中学校2年生が対象となります。そういったものに取り組んでおりまして、後ほどちょっと画像も出させていただきますが、例えば紳士服、幼稚園、保育園、小学校、美容院、障がい者施設ですとかスーパー、生花店、中華料理屋さんとか、市内の飲食店とか小売店、そういったもので職場体験というものに協力をいただいております。

最後、えびなっこスクールの実施ということで、これは各学校での独自の取組になります。

すが、例えば小田急電鉄さんですと車掌の仕事ということで、これは今泉小学校で開催されています。あと、富士フィルムさんではアメフトチームがフラッグフットボールを杉久保小でやっていただいております。城南信用金庫さんではお金の仕組みを海老名中学校で、リコージャパンさんではコピー機の仕組み、これも海老名中学校ですね。あとは大谷郵便局さんですと、夏のお便りと題しましてはがきの書き方を大谷小学校の授業で教えていただいております。

では、ちょっと戻りますが、中学校での職場体験ということで、左の写真は紳士服のアオキ海老名店での様子です。海老名中学校の生徒がここでお世話になっている。

右の写真は美容院になりますが、EARTHという美容院の海老名店で、こちらも海老名中学の生徒が体験をしております。

続きまして、こちらはコバック海老名店、中野にある自動車の整備工場ですけれども、こちらは柏ヶ谷中学校の生徒さんが体験をしております。

あとは、ちょっと写真は無いのですが、富士フィルムビジネスイノベーション様ですけれども、こちらでも職場体験を有馬中学校の生徒さんがお世話になっているところでございます。

最後にはなるのですが、冒頭でもご説明させていただきましたが、今回の総合教育会議、これも教育委員会として企業との連携の一步でございます。こういったご説明させていただいた事例等を基に、今後の学校と企業との連携の在り方について、皆様からご意見、ご感想等をいただければと考えております。よろしく願いいたします。

説明は以上です。

○内野市長 それでは、教育委員の皆さんから何かございますか。

○武井委員 ご丁寧な説明ありがとうございました。いろいろな企業提携、企業協力の中で、ハード面とか、そういったところはすごくいいところがあって、僕が感じるこういう協定内容の中にもう一つだけ追加してほしいものがあるとしたら、例えば企業提携を組むときに、生徒の登下校の安全を見守っていただけるような項目も追加していただくと、お金もかからず、そういったことを気にかけてくれるだけで、登下校の子どもたちの安全も少しはよくなるのかなというところですので、次にそういった機会があれば、そういった項目を少しだけでも追加していただければいいのかなと思いました。

以上です。

○濱田委員 企業連携って非常にいろんな形での連携があるかと思うのですが、やはり

企業さんにとってみれば、自分の会社の中にいろいろな、例えばセキュリティーの問題ですとか、守らなければいけない守秘義務の問題がかなりあるかと思いますが。それから、業種業態によってはサービス面が非常に活用できる部分と、あまり表に出ないような企業さんも当然あるかと思いますが、いろんな業態によって連携の仕方を研究していただきたいなと思います。

それと、今いろいろご報告いただいたのはやはり大手の企業さんが非常に多いと思うのですがけれども、中には中小さんや、あるいは、小さいまちのお店だけでも、いろんな協力ができるというのがあろうかと思いますが。そういうのもこれからは続けて広げていくというのも1つの手ではないかと思うので、そういうことで、次のステップをお考えになるようなことがありましたら、我々にもご相談いただければと思いますので、よろしく願いします。

○海野委員 ご説明ありがとうございます。今、世の中では、すごくつながるというのが非常に大事にされていて、やはり地域もそうだし、企業もそうだし、家庭のつながりとかもすごく大事だということで、子どもたちとも恒常的にそういったところまでつながっていただけると、地元の企業を知ってもらえて、よりつながっていけるのかなと思います。

それと先日、ボランティアで子どもの工場見学の見守りで行ってきたのですがけれども、本当にふだん見られないものが見られるということで、ものすごく楽しそうに、これ何だろう、あれ何だろうともものすごく目をきらきらさせて見ていたので、これからもそういう機会がどんどん増えていったらいいなと思いますので、よろしく願いします。

○平井委員 私が学校にいるときは、学校から一歩外に出て学習を進めていくには交渉から全てやらなければいけなかったのが大変でした。でも、子どもたちにやっぱり現場を見せてあげたいなという思いが強くて、幾つかの実施をしてきましたけれども、今回、このような企業とのつながりということで、本当に子どもたちの体験が広がり、視野が広がっていくのは本当にすばらしいなと思います。学校の負担も少なくなりますし、何しろ今まで、学校から外に出るといふ部分では、狭い中での机上学習が多かったのですがけれども、今回は本当に広がっていく、まずは海老名を知るといふ、子どもたちのそういう点では相当広がりがあるし、学校がぜひこういう機会を活用していただいたら、子どもたちは、楽しい体験、いい学びができるのではないかなと思いますので、学校の先生方にも、ぜひこのあたりのところを周知していただけたらいいなと思います。

○内野市長 ほかに皆さん、何かございますか。よろしいですか。

連携を始めたのは私の発想で始めましたけれども、行政と企業が連携する、その中で行政の中にある学校との連携、これは本当に必要だなとつくづく思っています。なぜかという、私の頃は、コカ・コーラしかなかったのですね。コカ・コーラが最高なのは、行くとコカ・コーラをくれて、鉛筆をくれて、有鹿小学校から歩いて行くのですけれども、帰りがけはコカ・コーラと鉛筆をもらって帰ってくる。これがもう習慣でありました。

そういった部分で、今は大きな企業も多くあって、雪印メグミルクさんも視察工程をつくった工場になっていますし、富士フイルムビジネスイノベーションもそういった設備を持っています。見るということはすごくいいなと思いますし、これからSDGsの関係とか脱炭素とか、子どもたちが知るべき様々なことがいっぱい各企業でありますので、そういったことを学んでほしいなど。それには、今日、校長先生がいらっしやっていますけれども、やっぱり学校の受け皿の問題です。うちはどんだんどんだんそういうものをPRしますから、学校としてどういうものを学んでいくかということが必要だと思います。

それともう1つ、濱田委員が言われた、海老名は本当に中小の中でもいい企業が相当あります。社家のある会社では、溶接ができないものを溶接するということで、そこへ行くと、何をやっているのですかという、相模原のJAXAで宇宙に運ぶもの、いわゆる衛星ですね、それを溶接するのに普通の溶接ではできないので特別溶接で溶接する。これは何に使われているのという、そこまでいうと会社は分からないのですね。言われたものを溶接するだけ。全て分かるということはありません。

もう1つは、東柏ヶ谷小学校の近くに東横エルメスという会社がある。エルメスといったらかばんかなと思うと、その会社、東横エルメスはかばんを作っているわけではなくて、ビルの地下をどんだん掘っていくときにくいをどんだん打ちますので、このくいが真っすぐに行っているか行っていないかを測定する機械が何千万円とか1億円して、その機械を作っている会社。その機械が横浜ランドマークタワーで使われている。そういった会社がある。

だから、本当に歩いてみるといろんな会社がありますけれども、中小の場合は受け皿、人数が、だあっと何十人も来ると困ってしまうので、その問題があって、学校である程度班ごとに行くとか、そうするとむしろいい。大きな会社になると学年とかクラスごとに行けるので、そういったものをうちのほうでも、商工会議所、あるいは各部門でプレゼンテーションを教育委員会にしますから、それを学校に流して、学校が何をやるか、それが

必要だと思いますので、よろしくお願ひしたいなと思ひます。

○伊藤教育長 企業さんと学校、子どもたちにとってウィン・ウィンというか、企業も来てもらうわけですから、企業の宣伝になってもいいのかなと私は実は思ひていて、子どもたちというのは実を言うといろんなものをよく見ひていて、そこにいくと、大人が気づかないものも実際よく見ひているのです。そういう意味でいうと、例えば今日も三島センター長がいますけれども、子どもたちは企業に行ひて、そっちは見ひてほしくないけれども、三島さんを見ひている子もいますよ。あのおじさんってどんな人？とか。でも、それがすごく大事で、だから、子どもたちにいろんなものをいっぱい見る機会を与えることが大事で、企業にとってもウィンであることが必要かなと。ウィン・ウィンの関係で教育との連携を進めていきたいと思ひておひます。

以上でございます。

○内野市長 それでは、次に移りたいと思ひます。（3）英語教育について、よろしくお願ひします。

○佐藤指導主事 教育部教育支援課指導主事の佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。着座にて失礼いたします。

それでは、現在の海老名市の外国語教育についてご報告をいたします。

現在、令和5年度から7年度を海老名市の外国語教育推進における第3期と位置づけ、日々の授業や交流授業を行ひておひます。外国語教育を通して、これからますます多国籍化、そしてグローバル化するであろう未来を担う子どもたちに、外国語で語り合ひ、世界の人々とのコミュニケーションを楽しむ力を育むことを目指しておひます。

現在、外国語教育の授業時数といたしましては、ご覧のとおり、低学年で年間10時間程度、それから3・4年生、中学年では年間35時間、5・6年生、高学年では年間70時間、中学生になると年間140時間を外国語教育に費やしておひます。海老名市では小学校低学年から外国語活動を行ひておひ、この時数のほかに小学校では年に1回、イングリッシュデーを全校で実施しておひます。後ほどご紹介いたします。

A L T、外国語指導助手についてです。現在、A L Tの人数は市内で13名で、小学校に10名、それから中学校に3名のA L Tを配置して、学校の先生方と一緒に外国語授業に携わっていただひておひます。

平成29年告示の学習指導要領の外国語活動・外国語編においても、生涯にわたる様々な

場面で、この外国語におけるコミュニケーション能力が必要とされるであろうと言われております。そのための指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと、とされております。企業の求める人材としても、近年、「外国語」を挙げる企業が増えていると言われております。

令和3年度、令和5年度に小学校6年生を対象に行ったアンケートの結果です。多くの項目でポイントの上昇が見られました。特に「外国の人たちや外国のことについてもっと知りたい」、それから「外国の人と友だちになりたい」という2つの項目については3ポイント以上の上昇が見られ、世界の人々とのコミュニケーションを楽しめる子という目指す姿に向かう子どもたちの意識と見ることができます。

中学校においては、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果において、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」全ての領域において全国平均を上回っているという結果が出ました。

ここからは少し動画も交えてご紹介いたします。動画につきましては、肖像権保護の観点からユーチューブ配信は控えさせていただきます。ご了承ください。

まずは小学校の授業の様子を少しご紹介いたします。

(説明動画視聴)

授業を担当する先生とALTとが、目指す姿・単元のゴールを共有することで、授業の中で連携しながら、子どもたちの英語による発話を促しています。

これは、これから学習する過去形の文型について、ALTがモデルとなって、子どもたちに「スモールトーク」、短い文型の見本を見せているところです。これを聞きながら、子どもたちは「これからどんな勉強をするのかな」ということを英語で理解しているところです。新しい単語を学ぶときには、その発音のモデルとなるところもALTがやっています。

続きまして、小学校におけるイングリッシュデーです。1つの学校に市内のALT13名全員を派遣し、1日を通じて英語に親しむ日を設けております。授業で学んだことを生かしたコミュニケーション活動やゲームなどを通して、主体的に英語を使ってコミュニケーションを楽しもうとする意欲や態度を育てることを目標としています。

これは低学年の始まりのオリエンテーションです。

ALT全員を派遣することで、少人数での外国語活動の機会を確保しています。

このイングリッシュデーでは、1日を通して、小学校1年生から6年生まで全ての学年

がオールイングリッシュで1時間の学習活動を行っています。

中学校です。令和5年度、海外とのオンライン交流ということで、中学校2校で、オンラインで台湾の中学生と交流をいたしました。中学生でやることによって、これまで小学校のときから身につけてきた外国語によるコミュニケーション能力を実践の場で使っていくことができます。

オンラインの始まりで、お互いの国の文化を紹介し合っています。

グループごとに自己紹介、自分の好きなこと等を紹介し合う活動も行いました。この活動を通して、中学生からは、自分たちの英語が通じた・伝わったという喜びや、全て正しい英語でなくてもちゃんと伝わるのだという実感、それから、国が違っても同じ中学生なのだといった感想が聞かれました。

外国語を学びたい、できるようになりたいというえびなっこを、これからも海老名市としては全力で応援していきたいなと思っております。Thank you for your listening!

これで外国語教育の説明を終わります。ありがとうございました。

○内野市長 今、説明がありました。委員の皆さんからありますか。おっ、英語得意ですか、武井委員。

○武井委員 丁寧な説明ありがとうございました。2点ほどあります。

海老名市が全国的な平均点より高い理由を1つと、今日も有馬中学校の校長先生が来ていらっしゃいますが、この間、学校を見学させていただいたときに、黒板の横のプロジェクターがあるのですけれども、先生たちはかなりの頻度でプロジェクターを使って端末で英文を映し出す、英文の読み方も機械で読むみたいなものがあるので、例えば海老名市も1人1台端末になってから、学校単位でもいいのですけれども、試しにそういった専門英語アプリとかを提供するというのであればいいのかなと思ったのですけれども。

○佐藤指導主事 外国語のAIアプリ等も今たくさん開発がされておりまして、実際、アプリを使って会話の練習をすることができるといったものも、様々な企業が開発しているところではありますが、現在、海老名市としては、そういったアプリを採用しているところはなく、ALTを他市よりもたくさん配置することで、生身のコミュニケーションというところを大事に、これまで取り組んでいます。

1人1台端末の中ですと、学習者用デジタル教科書というのが、外国語については小学校5・6年生から中学生まで全て入っておりまして、そのデジタル教科書を使って、今までですと、リスニングの練習、聞き取りの部分だと一斉に流された音声を聞いてという

ころだったのが、1人1台端末の中にそれが入っていることで、イヤホンで聞きながら、シャドーイングという流されたモデルの音声を繰り返したりとか、自分が発した英語を録音して聞き直して発表の練習をしたりということもできるようになっていて、授業によって先生方が活用している状況です。

○**海野委員** ありがとうございます。英語の授業なのですからけれども、小学校だと週に1時間とか2時間とかで、確かに小学校から中学校に上がったときに、結構みんな発音がよかったりと、成果が上がったというのを聞いているのですけれども、やっぱりしゃべって何ぼな気もするのですよね。実際、授業以外のところで、子どもたちが英語を自主的に話すような機会があったりするのかなということなのですからけれども。

○**佐藤指導主事** ふだん日常的にALTが学校の中にいる時間が長いことで、授業以外の場面でも校内でALTたちと会うことがたくさんできている状況を今つくることができます。そこで子どもたちは自主的にALTと会話をしたりということもごさいます。

○**教育支援担当部長** 私、実は英語科の教員なので、数年前まで教えていたので。海西中学校に行ったときに、ALTの方は、授業以外にも子どもに関わるというのも業務の1つなので、あるジャマイカ出身のALTの先生が、放課後に、海西中学校の体育館で剣道部の生徒に剣道を教えてくれということで、剣道を一から教えるようなことを、それは授業に関係ないのでけれども、子どもたちが一生懸命、日本の文化、武道を教えているのを見て、ああ、こういう形で実践的に使っているといいなという場面を見かけました。一例でございます。

○**内野市長** 麻生さんは、そのALTとぺらぺら会話できますか。

○**教育支援担当部長** 普通にはできますけれども、はい、教員免許は持っていますので。数年離れてしまっているのです……。

○**内野市長** そこなのだよね。はっきり言って、教員免許を持っている英語の先生が会話ができないって、そこが日本の根本的な問題なのです。だから海外に行くと、自分の母国語と第二外国語、台湾は英語を取っていますよね。ヨーロッパに行くとすごいですね。フランス人がドイツ語とか英語とか、いろんなの。日本だけなのですよ、日本語があつて第二外国語をしゃべれないって。これは私なんかも、本当に米軍の司令官と会うと大変ですよ、身振り手振りで体力を使う。だけれども、通じることは通じるのだよね、人間だから。だけれども、英語ができればすごいなと思うのだけれども、そこが今後どうするかなのですよね、これははっきり言って金がかかるから。

先生方がいるけれども、海老名はすごく金を使っているのですよ、ほかの市に比べたら。学校の先生も校長先生も皆さんいらっしゃる、井の中の蛙だけれども、ほかの学校に行ったら、綾瀬、座間に行ったら全然違うから。海老名はすごく金を使っている。

だけれども、1つだけいいのは、成績が海老名はいいということはすごくいい。はっきり申し上げて、座間、綾瀬に負けないから。あれが悪かったら予算はカットしたい。だけれども、その問題って、やっぱり今後どうするかですね。ALTを入れるのか、あるいは中学校ではある程度英語の専門的な、日本人でもいいけれども、会話ができる人を入れるのか。その部分を今後どういう方向でやるか。だって、小学校のほうがALTが多いわけだから。中学校は3人で少ないから。本来なら中学校でがんがん発表とか会話をやれようまくいくのだけれども。

だから、遊びの部分はまだいいのですよ。英語で発表できるぐらいでないと、これからの英語は通用しないのではないかなと。どこの就職も会社の就職もそうだよ。富士フィルムもそうだよ。英語は必須でしょう、リスニングをやって。三島さん、やっていないのですか。

○三島富士フィルムビジネスイノベーション海老名総務センター長 やりました。

○内野市長 やったでしょう。できますか、英語。

○三島富士フィルムビジネスイノベーション海老名総務センター長 あまり英会話としては話せませんが、昇格試験のときにTOEICのスコアが必要な部分もありますので、やはり勉強せざるをえません。

○内野市長 そうでしょう。だって世界の富士フィルムだものね。みんな、リコーもそうだけれども、ある程度の人たちはみんな英語をしゃべれないとできないとかいろいろあるので、それが今後の大きな課題だと私は思いますよね。やっぱり小学校からある程度親しんで、中学校でもう会話ができるぐらいだと最高だと。

そのために、うちも海外の姉妹都市とか友好都市をつくりたいのですけれども、意外とそれをつくったときにどこでやるかという問題があって、登別や白石市が今、苦勞しちゃっていて。付き合うことができないのですって、お金がないから。そういったことがいろいろあったりして、今、台湾からもやらないかという話も来ていて、台湾は、できれば大和、綾瀬、座間と県央4市で共同で友好しようかと、今そこまで話が出ていて、今後いろいろな課題があるのですけれども、やっぱり子どもたちが国際的な問題でやっていく以上、行政も少し一歩出ようかなという考えを持っています。もう今、昔と違って、お金が

かからない交流ができるということなので、そういった部分を研究していきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

ほかにございますか。

○平井委員 市長が言われたように、海老名は先取りでALTをやってきたと思うのですね。その割には、子どもたちが話すという域まで達していないというのはもったいないかなと思います。

外国語を学びたい、できるようになりたいというえびなっこを応援したいということなのですが、私は、できるようになって話せるよというところまで、もうこの何十年と語って指導してきているので、やるべきだなと思っています。そのためには、やはりイングリッシュデーというのは大きいかなと思うんですね。英語の世界に浸るというのはすごく大きくて、年1回ということなのですが、これをもうちょっと増やしていくということ、これは大きいかなと思います。

それから、県は高校生を海外に派遣していると。人数としては僅かだそうですが、海老名市でもそういう機会を設けて挙げたらいいのかなと思います。やはり英語の世界に入り込んで、子どもたちが戻ってきたときに、クラスの中で、学校の中で中心となってやってくれたらいいのかなと思いますので、ぜひ、ALTの雇用にとどまらず、先の一步を考えていく時期に来ているのではないかなと思います。

○内野市長 それでは、そういうことなので。だけれども、金がかかることなので。これだけは言うておきます。お金をかけないようにどうやってやるかということの研究してくださいね、本当に。これに金を相当使っているのです。

牛村さんが教育長を辞めるときに、最後の年、使いたいと言って、幾ら使いたいのですか、3000万使いたいと。何をやりたいのですか、これをやりたいと言って、そこからずうっと額がどんどん拡大しています。その部分をよろしくお願ひしたいなと。結果は出ているので、少しずつよくなっているのです、今、平井先生が言ったとおり、ここをワンステップ行ってもいいなと私も思うのですよ。だけれども、その問題がいろいろあって、やることもいっぱいあるので、学校の先生方、少し研究してください。お願いします。

よろしいですか。皆さんから何かございますか。どうぞ。

○傍聴者 市内でアルクという英語教室を運営しております。初めまして。

教職員ではないのですけれども、今回のテーマに英語教育というのが入っていましたのでとても興味深く思いまして、初めてこういう場に参加させていただきました。ありがと

うございます。

市長さんはじめ英語教育のことで盛り上がっていただいたのがすごくうれしくて、もう私も話したいと思ってしまって、ちょっとマイクを持たせていただいているのですけれども、やっぱり皆さんおっしゃっているように、学校の先生がなかなか、免許はもちろん持っていらっしゃるのですけれども、ネイティブ並みに話せないとか、そういう課題を私もたくさん間近で感じております。

今は2歳から生徒がおりまして、小学生までやっているのですが、20年ぐらい前には、私、本当に学校の先生に英語を教えていたりとか、大人の方にもやっていたのですね。当時、何で英語教室に小学校の先生が来たかという、やっぱり20年ぐらい前に、急に小学校で英語が始まるのだったというニュースが流れて、大手の英語教室にいたのですけれども、焦って来られる先生がいました。

そこから20年たって、少しずつではあるのですけれども、英語教育をしていってよかったと思う反面、まだまだだなどちょっと正直思うところがありまして、何かできることがあるということ、ちょっと今回、お話しさせていただけたらなと思いました。教職免許は持っていませんが、オールイングリッシュのレッスンというのは常に毎日やっておりますので、私1人の力ではあまり変わらないかもしれないのですけれども、少しでもそういう手助けをして……。

何で話せないかという、やっぱり臨界期というのがありますので、本当はなるべく低い年齢のうちにやっていくというのがポイントだったりとか、あと、脳みそを、日本語を通さないで英語のまま返さなきゃいけないとか、たくさんの課題があるので、そこら辺、ちょっと意見がもし言える場面があったら、またご協力させていただけたらと思います。よろしく願います。ありがとうございました。

○内野市長 どうもありがとうございました。（拍手）

はっきり申し上げて教育ですから、日本は文部科学省がとろいのですよ。文部科学省が一生懸命やればできるのですよ。だから、文部科学省って一番予算が取れない省庁なので、この辺が弱いからこうなるのです。もう全部、世界は国を挙げてやっていますから。これは今言われたとおり、言葉を考えるのに外国語で考えるのが必要なのですね。今、私が知っている夫婦がいて、奥さんは日本人、ご主人はオーストラリア人、子どもが2世なのだけれども、2人がそれぞれ日本語と英語で言うので、子どもが頭の中で混乱すると言われていました。そこが難しいなということは言っていましたけれども、本当に今後よろし

くお願いしたいと思います。

以上で終わりかな。では、司会を吉川に移します。

○教育部次長 内野市長、ご進行ありがとうございました。

これで第1部の協議事項を終了させていただきます。

(第2部 企業紹介)

○教育部次長 それでは、以上で、令和6年度第2回海老名市総合教育会議を閉会といたします。なお、次回は11月23日(土)に企業訪問の第2弾として、株式会社リコー様での開催を予定しております。多くの皆様に傍聴にお越しいただきたいと思います。

それでは、どうぞ皆様、お忘れ物なく気を付けて、お帰りください。長時間にわたり、誠にありがとうございました。